

有茎性基底細胞癌の1例

市橋 直樹¹⁾ 岡本 清尚²⁾

1) 高山赤十字病院 皮膚科

2) 高山赤十字病院 病理診断科

抄 録：症例は80代男性 右大腿外側殿部付近常色有茎性腫瘍で受診。直径約4.0 c mの常色桑実様有茎性腫瘍を局所麻酔下切除。病理像では基底細胞癌様、免疫染色ではBCL-2 陽性、EMA 間質のCD34は陰性。

索引用語：有茎性 基底細胞癌 大腿 bcl-2

I 症例

80代男性 かなり前より右大腿外側殿部付近に常色の有茎性腫瘍があるのに気がついていた。次第に大きくなり切除希望で来院された。

II 臨床像

右大腿外側に直径約4.5 c mの常色の桑の実様の有茎性腫瘍を認める。表面の半分ほどでは境界明瞭な黒色ドット状の部分がいくつか見られる(図1、2)。



図1 臨床像 右大腿全景。



図2 臨床像 部分的拡大

腫瘍辺縁はこのように持ち上がり根部には黒色部はみあたらない。局所麻酔下辺縁2 mmほどはなして全摘生検行なった。

III 病理像

断面では部分的に黒色粗大顆粒状の部分が散見される(図3)。

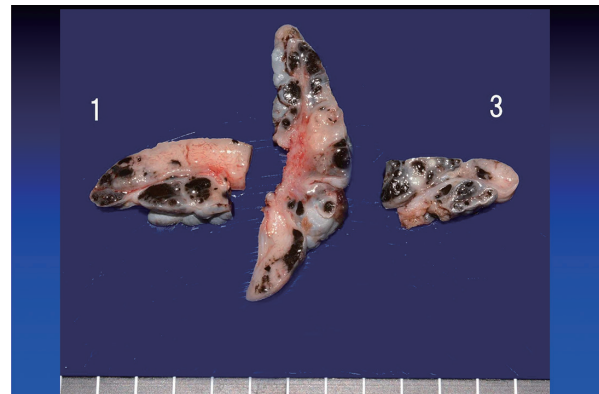


図3 摘出標本 断面

HE標本、ルーペ像では断面と同様に基底細胞様の色調の細胞層が所々嚢腫状構造を示しながら増殖しているのがわかる(図4)。

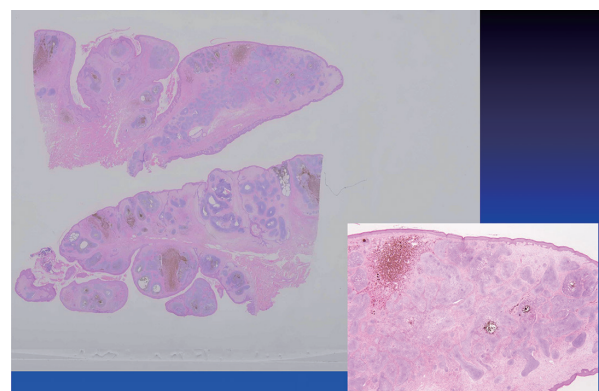


図4 HE 標本 ルーペ像

強拡大では核は類円形でクロマチン増加、NC比増大を示す細胞の充実性増殖を認める。基底部に配列する細胞のみ紡錘形であった(図5)。

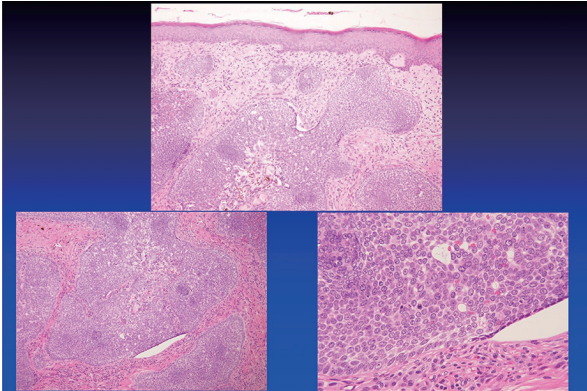


図5 HE 標本 強拡大像

間質との裂隙形成するところもみられる。

免疫染色BCL-2では細胞巢全体に陽性を示しているが、EMA間質のCD34は陰性であった(図6)。

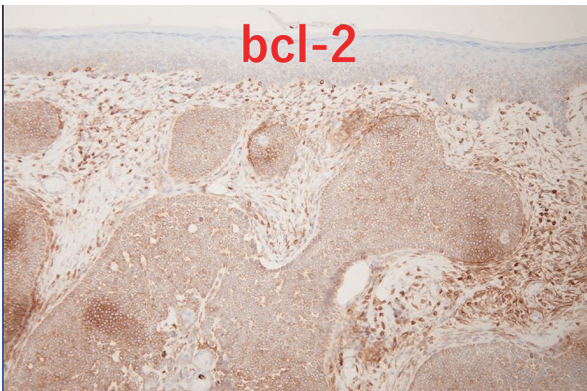


図6 免疫染色結果 bcl-2

IV まとめ

80代男性の右大腿部臀部付近に生じた有茎性基底細胞癌の症例を報告した。桑実状で一部黒色点が診られる直径約45mmの腫瘍であった。病理学的にメラニンの基底細胞様の細胞の胞巣からなるメラニンの豊富な腫瘍であった。

免疫染色の結果は表の通りで、これらの免疫染色態度は新井栄一の論文の基底細胞癌に一致した¹⁾(表1)。

医学中央雑誌で検索しえた有茎性基底細胞癌についてまとめると性差はなく、男性の年齢層が低かった。部位に関しては通常基底細胞癌のように頭頸部が多くみられたが、有茎性の基底細胞癌ではこれと同数程度下肢領域にみられた。

免疫染色結果

	BCC	Trichoepithelioma	SCC	自験例
bcl-2	びまん性	最外層	-	びまん性
CD34	間質-	間質+		間質-
EMA	-		+	-

表1 免疫染色結果 まとめ

なお、大きさについては特に隠れやすい下肢が多いわけではなく、頭頸部にも大きい物は見受けられた。

有茎性の基底細胞癌としては比較的典型例と思われ供覧させていただいた。

なお、この発表内容は2020年10月10日 日本皮膚科学会中部支部学術大会WEB開催で発表した物に加筆した物です。

V 文献

- 1) 新井栄一：表皮系腫瘍、病理と臨床、32:350-354,2014